

国語

注意 解答はすべて各問の下端の 内に指示された解答欄にマークまたは記入する

こと。なお、解答欄のうち、この試験で使うのは、マーク式解答欄の 1 9、

記述式解答欄の A E のみである。

問題 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

むかしのギリシア人が、生と死について、自然と人生について、また社会と a

について、どんなことを考えていたかということは、これをひろく各方面から調べてみることができる。彼等の墓碑銘やおどり歌の文句を取ってみても、また物語や戯曲などの作品とか、ギカイ¹や法廷の弁論、公会の演説などを読んでみても、それを知ることが出来るし、 b その宗教行事や社会的習慣などを調べてみても、それをいろいろに推察することが出来る。しかしながら、これらはギリシア人一般の思想や感情を内におさめているとはいえず、思想そのものを、はっきりと独立したかたちで示しているわけではない。思想を思想として取出し、これに独立の取扱いを与えるというのには、いわゆる哲学者の出現を待たねばならなかった。それは少数天才の仕事であった。それは一般人の思想や感情を土台にするものであるとも考えられるが、時代時代についてみれば、むしろ一般の思想と対立し、思想家がコドク²な立場にある場合も決して少なくはない。無論、それらの思想家の理解者も欠けてはいないので、その熱心な支持者は、時と共に増加し、一般の流行をつくり出すかのように見えることもある。しかしそれとて、一部の知識層が動かされたまでのことで、一般人の思想は、昔ながらの流れをなしていたのではないかと疑われる。人間精神の神性を信じ、 c の不滅を論ずることは、プラトン哲学の特色ある一面と見られるであろうが、墓場のまつりを中心に、ほんやりと死すべき人間のいのちを考えていた一般人には、ほとんど没交渉の思想ではなかったかとも疑われる。しかも一般人の生死の考えは、ホメロス以前から古代末まで、あまり変化しない面が、少なからず見出されるようにも思われるのである。従って、ギリシア^ア思想の研究といっても、いろいろなものがあることを知らねばならない。ギリシア人一般の思想感情を、いろいろな材料から探り出すというのも、その一つである。そのような研究によって人々は、他の諸民族とも共通するような、原始的な思考をギリシア人の生活のうちに、いろいろと発見することが出来るであろう。しかしまた他の人々は、世界史的な見地に立って、世界の思想の歴史が、特にギリシア人のうちから借りなければならなかったような、何か特異なもの、しかも後の思想史のハッテン³に重要な意味をもつが如きものを求めようとする。この場合には、多数のギリシア人¹が何を考えていたかというようなことは、それだけでは問題にならない。それは他の人々も、他の時代に考えていたような、平凡のことが多くて、別に思想の歴史に、新しいハッテン³をもたらさずような、特異のものが認められないからである。このような思想史の見地に立つ時、私たちはむしろ少数の、時にはコドク²な、思想的天才の思想にチュウモク⁴しなければなら

なくなる。これが狭義のギリシア思想史、あるいはギリシア哲学史の研究である。しかしながら、この種の研究は、思想家の思想を一応それ自体において、他の歴史的関連から引き離して取扱うのであるから、一種の抽象性をまぬかれない。無論、すべての専門史は、このような抽象なしには成立し得ないのであるが、しかしまた他面、歴史的理解は何かこのような抽象性の克服を要求するもののようにも考えられる。すなわち私たちは、全体の歴史的関連から引き離されて、ただ思想そのものとして取扱われたものを、もう一度全体的関連のうちにおいて、歴史全体の流れのうちこれを理解したいと思うのである。その時、少数の思想的天才の思想は、一般大衆の思想感情を背景にして理解されることにもなれば、また他の芸術的天才の仕事と一緒に考えられることにもなり、政治情勢や経済事情、科学技術や宗教行事など、一切のものがこれに関連をもつことになる。抽象の立場をテツテイ¹⁵させたものが、もし純粹思想史、あるいは単に思想史と呼ばれるならば、このように思想を全体的関連のうちに捉えようとする立場は、精神史¹⁶の立場となるであろう。思想は精神の一部と考えられるからである。しかし私たちは、この全体的関連をもつとひろく、文化や社会のうちに求めることも出来る。その時、思想史は文化史や社会史の一部となる。しかしながら、このような場合には、今度は思想が、その一部しか取扱われなくなる危険が多くなる。社会や文化の一般に関係のあるような一面のみが取り出されるわけである。いわゆる文化史や社会史もまた、多分に抽象的なのである。それはしばしば一種の浅薄さとなって現われる。ペルシア戦争¹⁷の英雄であったテミストクレスについて、次のようなことが言い伝えられている。それはある小国人がテミストクレスに向かって、あなたの今日の名声は、あなた自身の力によるのではなくて、たまたまあなたがアテナイのような国に生まれていたからだと言って、彼の高名にけちをつけようとした時、それはなるほど私が君の国に生まれていたので、今日の名をなすことは出来なかつたかも知れないが、しかし君がアテナイに生まれていたので、今日の名をなすことは出来なかつたかも知れないだろうと、答えたというのである。天才の仕事は社会条件だけで説明しようとする者は、この小国人と同じであると言わなければならない。無論、思想の社会的研究や一般文化史的研究は、充分に有意義なことであつて、思想史を精神史に深めるためにも、是非必要なことである。しかしそれらの社会史的研究や文化史的研究をもって、思想史そのものに代えることは出来ない。思想はどこまでも、思想そのものとして理解されなければならないような、自己自身のものをもっているからである。全体的関連において理解するということは、私たちの理想として、常に努力されなければならないことではあるが、実際の歴史研究においては、どこかに一面性が出て来ることを知らねばならない。いわゆる精神史的研究というようなことも、軽々しく口にされたりするけれども、実際の歴史研究としては、なかなか大へんなのである。私たちとしてはまず一応、思想そのものを抽象的、一面的に理解することから始めなければならない。つまり私たちが取扱うギリシア思想は、そのような限られた意味のギリシア思想なのである。

問1 傍線部1～5のカタカナを漢字に直して、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1 2 3 4 5

問2 空欄 に当てはまる語句として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 個人 ② 家族 ③ 世間 ④ 集団

問3 空欄 に当てはまる語句として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① したがって ② つまり ③ しかし ④ また

問4 空欄 に当てはまる語句として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 世界 ② 宇宙 ③ 霊魂 ④ 身体

問5 傍線部ア「ギリシア思想の研究といっても、いろいろなものがあることを知らねばならない」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① ギリシアの研究には、プラトンの哲学から墓場のまつりの思想まで含まれるから。
② ギリシアの研究には、思想家の思想だけでなく、一般人の考えも含まれるから。
③ ギリシアの研究には、ギリシア人一般の思想感情を探り出す必要があるから。
④ ギリシアの研究には、あまり変化しない面が少なからず見出されるから。

問6 傍線部イ「多数のギリシア人が何を考えていたかというようなことは、それだけでは問題にならない」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① ギリシア固有の思想を取り出すことができるから。
② ギリシア固有の思想を取り出すことができないから。
③ 他の諸民族とも共通する思想を見出すことができないから。
④ 原始的な思考をいろいろ発見することができるから。

問7 傍線部ウ「抽象性の克服」とあるが、どういうことを意味すると考えられるか、最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 思想の普遍性を獲得すること
② 思想の独自性を獲得すること
③ 思想を歴史全体の中に位置づけること
④ 思想を歴史全体から引き離すこと

問8 傍線部エ「精神史」とあるが、この語句と対立する内容をあらわす本文の語句として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

7

- ① 専門史 ② 思想史 ③ 文化史 ④ 社会史

問9 傍線部オ「ペルシア戦争の英雄であったテミストクレスについて」とあるが、この話を紹介することによって何を言おうとしているか、最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

8

- ① 個人の業績を出生地だけで説明しようとする浅薄さ
② 個人の業績を社会的環境だけで説明しようとする浅薄さ
③ 文化史や社会史の見方が有意義であること
④ 文化史や社会史の見方が有意義でないこと

問10 筆者の考えに最も合致するものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

9

- ① ギリシア思想を、ギリシア人一般の思想感情から切り離して扱う。
② ギリシア思想を、他の諸民族とも共通するような原始的思考として扱う。
③ ギリシア思想を、社会的条件によって説明できるものとして扱う。
④ ギリシア思想を、精神史の一部として、社会史のおよび文化史的に扱う。